

第32回 福島県特別支援教育センター研究発表会

「共に学び共に生きる社会の形成に向けて」

～共生社会に向けた特別支援教育の役割について考える～

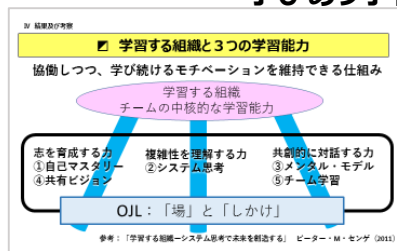
去る平成29年12月1日（金）に、第32回福島県特別支援教育センター研究発表会を開催しました。教育関係者を始め、県内外から230名をこえる方々にご参加をいただきました。第4号では、各発表等の主な内容をご紹介します。



◆平成28・29年度教育研究（二年度）

「特別支援学校教員の協働による専門性の向上・継承と校内組織の活性化」

～学びあう学校組織（OJL）への取組～



OJLとは「On The Job Learning」の略で、「職場における共感にもとづく自立的相互学習を通じて職場風土を改善し、個人個人と組織の成長を促す学習プロセス」のことです。各特別支援学校から推薦されたOJLサポート教員の各校での実践から、組織的・協働的に取り組む専門的な力（3つの柱と5つの要素）を整理することができました。また、OJLを学び、実践することで、専門性の向上等にもつながることも数値等から検証し、発表しました。

◆平成28・29年度調査研究（二年度）

「入院児童生徒等の学習状況調査と支援体制の整備」

～切れ目のない教育や学習の充実を目指して～

病気の子どもや入院している子どもは、学習や生活の中で様々な不安を抱えています。そのような児童生徒の教育を保障し、必要な支援を行うために、「一層の理解啓発」「関係者による連携の強化」「連携推進及び学習支援等に当たる人材の充実」「ICTを活用する環境の充実」の4つの提言を行いました。

病気の子どもたちの
よりよい「今」と「将来」に向けて

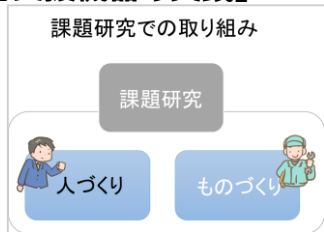
切れ目のない教育や学習の充実を！

病気の時でも 教育はできます
病気の時だからこそ 行うべき教育があります
病気になったら 受けられる教育があります

「病気の子どもの理解のために」（一部抜粋）
全国特別支援学校病弱教育校長会 国立特別支援教育総合研究所

◆実践発表

「教育支援機器の実践」



福島県立郡山北工業高等学校

課題研究として、昨年度より郡山支援学校と連携し、支援機器を作成している実践を紹介していただきました。高校生が試行錯誤しながら取り組む中で、使用者目線での製作、自発的な工夫や改良などのものづくりに対する意識の変化、人の役に立つことへの実感、意見を出し合い協力することの大切さなど、生徒の人間的な成長が見られた実践でした。

◆教育講演

「共生社会に向けた教育・医療・福祉の連携のあり方」

～これからの発達障がい支援から見てくること～

国立障害者リハビリテーションセンター病院

発達障害情報・支援センター

病院長・センター長（併任）

西牧謙吾 氏

特別支援教育の歴史を交えて、何を目標として今日の特別支援教育に至ったのか、学校が何を目標とするのかということについて、お話していただきました。また、医師という立場から、事例も交えて特別支援教育の課題や期待することについてもお話いただき、様々な困難を抱える子どもたちとかがかわるヒントをいただきました。

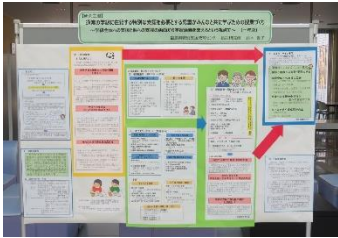
児童精神科から見た特別支援教育への期待
しっかり治療教育が行える場を確保すること

1. 全ての特別支援学校で、不登校の子どもの教育相談が出来ることが望ましい
不登校の多くは、背景に発達障害と精神疾患があるので、特別支援教育システムを進化させる可能性がある
2. 心の育ちをゆっくり支える総合特別支援学校(学級)を増やす

連携とは、相手（医療・福祉）を知ること、自分（教育）を知ることから始まる

ポスター発表

長期研究員2名は一年次の研究としてそれぞれ、小学校の通常の学級で共に学ぶための授業づくり、中学校の知的障がい特別支援学級での進路指導について発表しました。「小・中学校に在籍するきこえに課題のある児童生徒の学習環境等実態調査」では、現状と課題、今後の支援に向けた発表を行ないました。



学校紹介

今年度新設された、たむら支援学校、石川支援学校たまかわ校と、四倉高校内に移転となった富岡支援学校四倉校舎の紹介をポスターで行いました。現在、ポスターをセンター内に掲示していますので、来所時にぜひご覧ください。



調査研究、教育研究、教育講演会、長期研究員研究、「きこえの調査」の詳しい内容については、3月に発行される第31号研究紀要をご覧ください。

お知らせ

「病気の子どもや入院している子どもの支援ガイド」ができました。児童生徒が病気や入院のために支援が必要になったときにどのようにすればよいか、相談できる機関の紹介等がまとめられています。

特別支援教育課、本センターのWebページからダウンロードすることができます。



図書室

新しく図書を購入しました。貸し出しもしておりますので、ぜひご利用ください。

『小・中学校でできる「合理的配慮」のための授業アイデア集』(田中裕一 監修)

全国の先生方の実践が写真入で掲載されています。



『高等学校における特別支援学校の分校・分教室全国の実践事例23』(柘植雅義 他)

勿来高校・いわき支援学校くぼた校の実践が掲載されています。

☆その他の購入図書☆

『もっと知りたい!話したい!セクシュアルマイノリティありのままのきみがいい』全3巻(日高庸晴)

『ひといちばい敏感な子』(エレイン・N・アールン)

『視覚認知トレーニング』(本多和子)

『体育で始める学級作り』(阿部利彦 監修)

『全国の特色ある30校の実践事例集「特別支援学級編」』(柘植雅義 他)

『全国の特色ある30校の実践事例集「通級による指導編」』(柘植雅義 他)

『発達障害の子のライフスキルトレーニング』(梅永雄二 監修)

『知的障害教育における生きる力と学力形成のための教科指導』(渡邊健治 監修)

『知的障害教育における学習評価の実践ガイド』(国立特別支援教育総合研究所)

『特別支援教育支援員ハンドブック』(庭野賀津子)

『教育オーディオロジーハンドブック聴覚障害のある子どもたちの「きこえ」の補償と学習指導』(大沼直紀 監修)

『難聴児・生徒理解ハンドブック通常の学級で教える先生へ』(白井一夫 他)

『「本人参加型会議」で不登校は改善する!教室復帰に向けた特別支援教育からのアプローチ』(三浦光哉)

『見えにくい子どもへのサポートQ&A』(氏間和仁)

『五訂版視覚障害教育に携わる方のために』(香川邦生)

『光村の国語この表現がぴったり!にていることばの使い分け第1巻 気持ちを表すことば』(高木まさき 他)

この他、特別支援教育に関する図書が多数ありますので、ご活用ください。

